

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670600123
法人名	特定非営利活動法人
事業所名	グループホーム 桃の家
所在地 (電話番号)	鹿児島県阿久根市山下字前田4452-1 (電話) 0996-72-3751

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂本町27-5
訪問調査日	平成19年3月31日

【情報提供票より】(平成19年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11(10) 人	常勤 10(9) 人, 非常勤 1(1) 人, 常勤換算	4.7(4.4) 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	造り 平屋建て	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	700 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・内山病院 ・喜多医院 ・脇本病院 ・脇本歯科 ・阿久根歯科 ・出水市立野田医療センター
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、阿久根の市街地より少し離れた山間の地域に位置し、周囲は豊かな自然環境に恵まれ、利用者は四季折々の移り変わりを感じながら生活を送っている。自家菜園があり、職員と共に農作業を行ったり、主に収穫した野菜を中心に食事作りをし、食欲を増進させている。管理栄養士により利用者の希望をとり入れた献立を作成しカロリー計算もして、持病のある人の食事管理も充実している。中庭を間にユニットが建築されている特性を活かし、利用者同士の交流を図るため、ミーティング等合同で行い、情報の共有を図っている。小集落の為、地域の人々との交流も活発に行い、防災の面でも地元消防団や住民の協力体制が整い、利用者は安心・安全の生活を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後すぐに職員会議にて結果報告、改善に向けての検討はしている。要改善3項目あり、1緊急時の手当についてマニュアルは作成していなかったが、市販のテキストを準備して定期的に研修を実施している。2相談苦情についても改善している。3介護計画については検討しているが改善までには至っていない。更なる努力を望みたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービスの評価の意義や目的は管理者より全職員に対して伝えてあり、自己評価も全職員で行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3回行っており、利用者の生活状況、サービスの提供状況、介護相談員の受入状況等を報告している。又、前回の外部評価の結果を報告し、参加者と共にグループホームの質の向上に向けての意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談箱は玄関に設置し、相談ノートも用意している。入居時に重要事項説明書にて説明もしている。今まで苦情は0件、相談1件あり。その内容については職員と検討し、改善に取り組んでいる。家族にも報告をしている。家族等が意見や苦情を話しやすい雰囲気作りを心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会には加入し、区費の集金や市報の配布等、利用者は職員と共にやっている。定期的な清掃作業にも参加しており、その他運動会・竹の子祭り等地域で行われる行事には積極的に参加している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、地域密着型サービスとしての理念の意義については、十分に理解しており、看護理念・運営理念は作成している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者より、理念についてはミーティングや申送り時に、職員に対して十分な説明がしており、共有を図るとともに、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区費は支払っており、その集会や市報の配布等、利用者と共に散歩を兼ねて行っている。又、清掃作業や運動会・竹の子堀り等、地域の行事に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全職員に伝えてあり、全職員で自己評価を行っている。前回の外部評価の結果も職員会議で報告し、改善に向けて検討し、その実施に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	既に運営推進会議は3回行っており、利用者の生活安定やサービスの提供状況等の報告を行っている。外部評価の結果も報告し、参加者と共にサービスの質の向上に向けて検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所では、介護保険課の担当者及び包括支援センターの職員と連携をとり、利用者の医療・生活支援等の相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と共に、利用者の近況報告をしており、尚且つ、定期的にホームより便り「桃の家」を発行し配布している。訪問時にはアルバムやビデオを見せ、金銭については金銭出納帳を明示し、領収書と共に報告・確認をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談苦情箱を設置し、ノートも設置していたが、今までに苦情は1件もない。しかし、記載はされていないが相談は1件あり、その内容については職員と検討し、改善に取り組んでいる。家族等が不満や苦情等を話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員交代による入居者のダメージについては十分に理解しており、新規採用者に対しても十分な説明をしている。職員の代わる時は、引継の期間が1ヶ月間あり、スムーズに交代できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内外で開催される研修会には、段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告については職員会議やミーティング等で発表をし、研修内容については全職員で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県グループホームの連絡協議会へ加入し、県外の研修等に参加する機会は設けているものの、地域の連絡協議会への加入がなく、地域の同業者と交流する機会を持っているとはいえない。	○	地域の同業者ネットワークに加入し交流を図ると共に、他のグループホームとの見学や学習会を通して、サービスの質の向上に向けて取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人及び家族に、ホームの日帰り見学・体験宿泊して貰い、慣れない人については家族と一緒に慣れるまで泊まって貰い、本人及び家族が安心し、納得してサービスを利用できるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、日常会話の中で、昔の生活の技や生活文化を教えて貰っている。それに対して職員は、利用者の発言の機会が多くなるように声かけや場面作りを工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者(介護計画担当者)がセンター方式のアセスメントを使い、本人の意向や思いを確認している。日々のケアの中で、本人や家族の希望や意向の把握に努め、アセスメントシートに記録し、全職員が共有するように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を聞き、受け持ち介護スタッフの意見を中心にミーティングを行い、介護計画を作成している。しかし、本人や家族の希望や意見を十分に活かしておらず、個別で具体的な計画の作成に至っていない。	○	本人及び家族の意向を十分に活かすと共に、職員と共に利用者を支えるために、より個別で具体的な介護計画を作成されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを3~4カ月実施していない。随時、状態の変化に応じて見直しは行っていると言うことではあるが、申し送り簿や日々のミーティングの口頭上のみ確認であり、介護計画書上での見直しは記録として残っていない。しかも、十分にモニタリングしていない。	○	定期的に見直しを実施すると共に、計画を変更する時は、本人及び家族・職員と共有を図る為にも、介護計画書に記録として残されると共に、十分にモニタリングをされることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望する利用者は、隣接している認知症対応型通所介護施設へ、週3回フラダンスや健康体操等に参加してレクリエーションを楽しんでいる。通所する利用者との交流を図る為の支援を行っている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医は、入居時に把握している。通院が遠方で困難な人については、協力機関を窓口定期的に通院し、尚且つ、訪問診療に来て貰うよう、安心して医療を受けるよう支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意向を大切に、家族の希望と医師の意見を参考に意志確認書を作成し、同意を得ている。重度や終末期にむけて医療機関と提携を密に図り、職員と共に24時間対応できるように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はプライバシー確保の重要性については十分に認識しており、研修会や日々のミーティングにて職員の意識向上を図ると共に、日々のケアに実践できるように取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態や天候に合わせて買い物や散歩等は決めている。起床や就寝時間・食事にかかる時間等、一人ひとりの個性を大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で利用者と一緒に収穫した野菜を使って一緒に調理を行い、一体となり食事を楽しんでいる。テーブルの上に置いた各個人名のプレートには、小さな字で本人の嫌いな物、支援に関わる本人の意向(最後まで一人で食べたい等)を記入し、それに沿った支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週3回入浴をしているが、本人の要望で毎日入浴出来る体制となっている。お湯の温度や入浴順番等は、利用者の希望を優先し、入浴を嫌がる人に対しては時間をかけて声かけをしたり、清拭を行ったり等の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族の聴取より生活歴等を把握し、それを基に入居者一人ひとりの能力に応じて支援を行っている。農作業の得意な人には庭や畑の草取り・野菜の収穫・食事作りや片づけ・洗濯物干し等、利用者の知恵や経験が発揮出来る場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、毎日のように散歩支援を行っている。月に3回以上は野外レク活動も計画的に実施し、その他交代でスーパーへの買い物等、ホームに閉じ籠らないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員が、利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握しており、見守りは徹底し、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけて一緒について行く等、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地域の消防団・消防署員の協力を得て、消火訓練・避難訓練を行っている。火災予防週間の時も、夜間訓練等を実施している。その他地域の住民15名に対して、火災通報装置にて連絡協力を得られる体制を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、利用者の希望や季節行事に応じて栄養士が作成し、カロリー計算もしている。食事や水分の摂取量も把握していて記録に残している。利用者一人ひとりの嚥下・咀嚼状態に応じて、食物の状態や硬さを変える等の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には、ソファー・畳のコーナーがあり、テーブルには花が生けてあり、利用者は自由に好きな場所で過ごしている。広いガラス戸が中庭に向けて造ってある為、自然採光にて室内も明るく、食堂の椅子に座ったままで中庭に植えてある季節の草花によって四季を感じることができる。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によっては、こたつ・仏壇・箆笥等の持ち込みもあり、その人らしい居室づくりとなっているところもあるが、備え付きのベッドと家具以外には、利用者馴染みの物が何もないという居室もある。	○	居室づくりの重要性について、家族に繰り返し説明をすると共に、全ての利用者と共に職員がその人らしい居室づくりに取り組むことが望まれる。